



地域を見つめる経済情報誌

# 長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

## 景況調査レポート



妙高戸隠連山国立公園  
戸隠展望苑

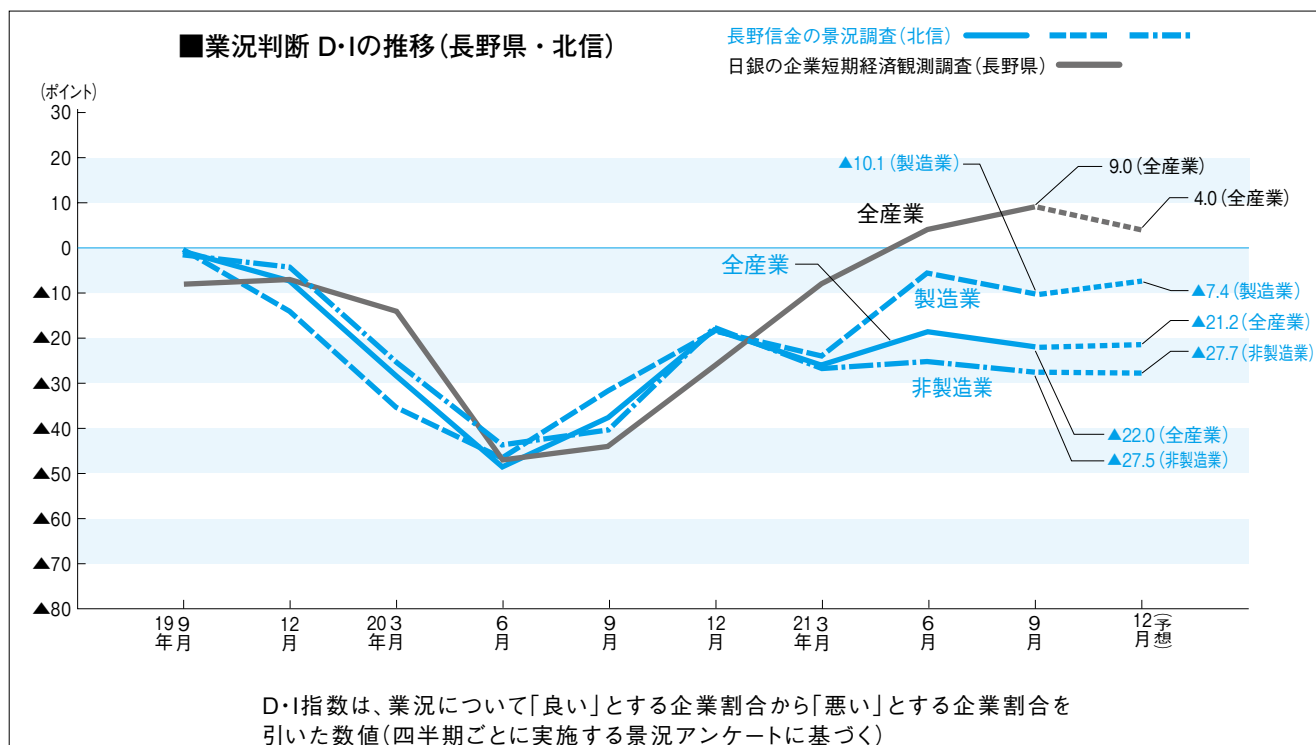
展望台から雄大に広がるそば畑を見ると思い出す「信濃では 月と仏と おらが蕎麦」の一句。小林一茶の句と聞いていたら、実際は柏原の中村某氏(ほつし)が作ったとの説が有力です。作者は誰であれ、この句が北信濃の名物を見事に詠み込み、「信州そば」の名を世間に広めた秀逸なキャッチコピーであるという歴史は変わりません。いよいよ戸隠は新そばのシーズン。根曲り竹(ねまが)の朶(たわ)に盛られた「ぼっち盛り」が待っています。「そば時や 月のしなのゝ 善光寺」(小林一茶 七番日記)

- 長野しんきん景況調査レポート ..... 2
- 企業アンケート 環境に配慮した企業経営 ① .... 6
- 生活者アンケート 環境問題—地球温暖化 ①..... 9
- 北信濃 江戸時代の風景 (86) 善光寺の西方..... 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



◆長野県北信地区◆2021年7～9月期…景況の現状 ◇2021年10～12月期…景況の見通し



## 全産業▲19 → ▲22 製造業・非製造業ともに悪化

2021年7～9月期の業況判断D・Iは、全産業で3割悪化して▲22となりました。製造業は4割悪化の▲10、非製造業も3割悪化の▲28です。

2021年10～12月期の全産業の業況判断D・I(予想)は、1割改善の▲21となりました。

### ◆北信地区の7月～9月期の業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲19	▲22 (3割悪化)	▲21
製造業	▲6	▲10 (4割悪化)	▲7
非製造業	▲25	▲28 (3割悪化)	▲28

## 非製造業▲25 → ▲28 サービス業は改善

非製造業の業種別業況判断D・Iは、建設業が▲2(前期比+2割)、卸小売業が▲38(同▲31割)、

サービス業が▲55(同▲60割)となり、サービス業が改善しています。

### ◆非製造業の業種別業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	▲25	▲28 (3割悪化)	▲28
建設業	+2	▲2 (4割悪化)	▲8
卸小売業	▲31	▲38 (7割悪化)	▲42
サービス業	▲60	▲55 (5割改善)	▲43

### ◆売上高D・Iと収益判断D・I

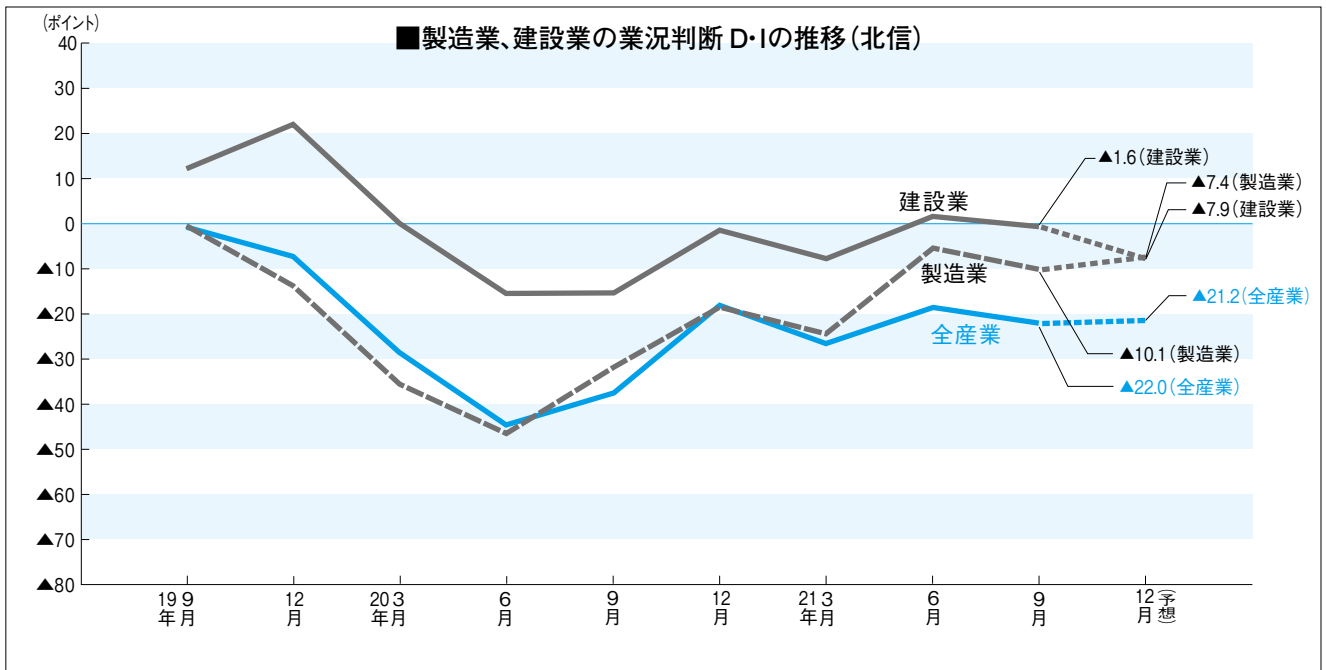
	売上高D・I(「増加」-「減少」)		収益判断D・I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	▲10	▲10(横ばい)	▲14	▲16(悪化)
製造業	▲10	▲15(悪化)	+3	▲17(悪化)
非製造業	▲19	▲7(改善)	▲23	▲15(改善)

### ●北信地区の業況判断D・Iの推移

	2020年12月	2021年3月	6月	9月	12月(予想)
全産業	▲18.1	▲26.0	▲18.6	▲22.0	▲21.2
製造業	▲18.5	▲24.0	▲5.5	▲10.1	▲7.4
非製造業	▲17.9	▲26.8	▲25.1	▲27.5	▲27.7

### 【調査要領】

- 調査実施……2021年9月
- 調査対象企業(回収)
  - 製造業……69社
  - 建設業……63社
  - 卸小売業……42社
  - サービス業……44社
- 合計……218社
- 回収率……84.2%
- 従業員規模
  - 30人未満……73.4%
- 分析…D・I判断指数を中心に分析



## 製造業の景況

### 4割悪化して▲10に、来期は改善の予想

製造業の7～9月期の業況判断D・Iは▲10で、前期(▲6)に比べ4割悪化となりました。10～12月期は今期より3割改善の▲7の予想です。

	(前期)	4～6月期	▲6
◆業況判断D・I	(今期)	7～9月期	▲10
	(来期)	10～12月期	▲7(予想)

#### ◇業種別業況判断D・I

改善	金属加工・一般機械・精密機械
悪化	食料品・電気機械・自動車部品

#### ◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲17(20割悪化)

「増益」割合	前期 27% → 15% (12割減少)
「減益」割合	前期 25% → 32% (7割増加)

#### ◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」	前期 45% → 37% (8割減少)
「収支トントン」	前期 34% → 44% (10割増加)
「赤字」	前期 21% → 19% (2割減少)

## 企業からのコメント

- ☆★コロナ禍にも慣れて影響も減ってきた。他方、国際状況の変化に伴う、小麦粉・そば粉の値上げに対しては、慎重に対応する必要がある。(そば)
- ★☆コロナ禍の影響が長く続き、土産向け商品はほとんど動いていない。一般小売向け商品は、比較的安定している。(農産物加工)
- ★購入部材が品薄状態のため、予定していた期間に間に合わない状況。今後の行程に大きな支障をきたすものと危惧される。(電気機械)

## 建設業の景況

### 4割悪化して▲2に、来期は悪化の予想

建設業の7～9月期の業況判断D・Iは▲2で、前回(+2)に比べ4割悪化しています。10～12月期は今期より6割悪化の▲8の予想です。

	(前期)	4～6月期	+2
◆業況判断D・I	(今期)	7～9月期	▲2
	(来期)	10～12月期	▲8(予想)

◇業種別	総合建設	前期 +56 → +13 (43割悪化)
	土木工事	前期 ±0 → +8 (8割改善)
	建築	前期 +4 → +9 (5割改善)
	各種設備	前期 ▲36 → ▲27 (9割改善)

#### ◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲19(14割悪化)

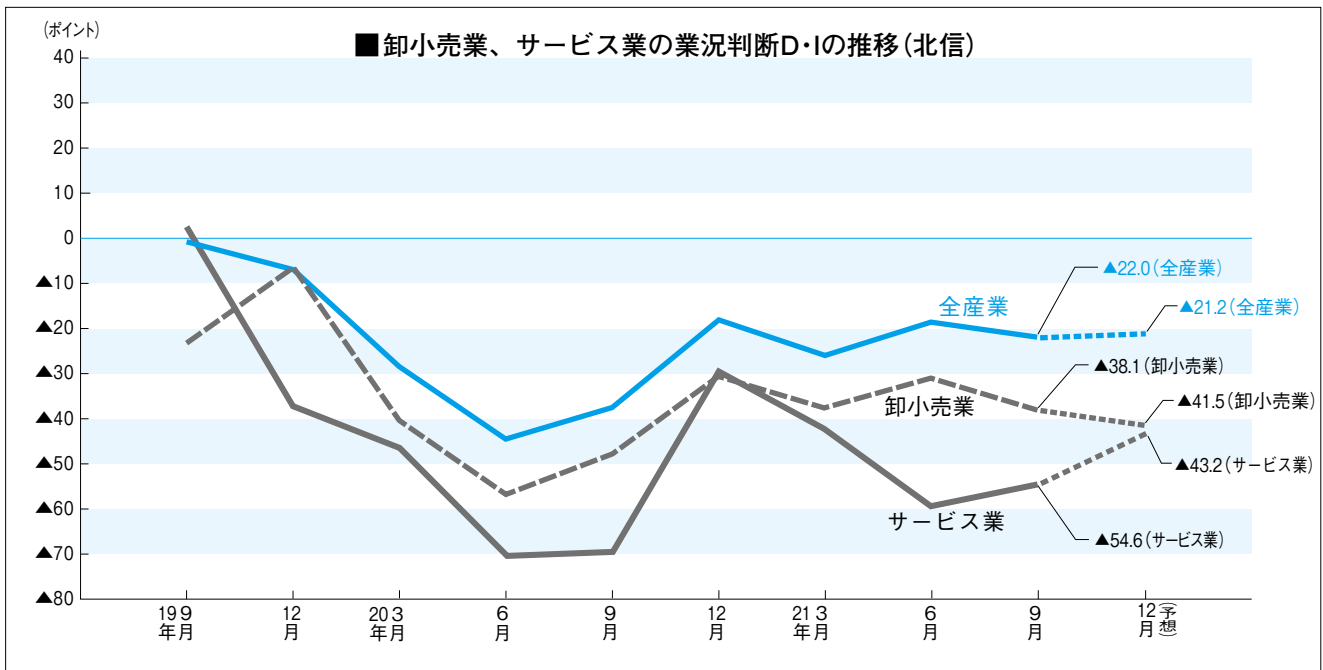
「増益」割合	前期 16% → 10% (6割減少)
「減益」割合	前期 21% → 29% (8割増加)

#### ◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」	前期 56% → 49% (7割減少)
「収支トントン」	前期 44% → 46% (2割増加)
「赤字」	前期 0% → 5% (5割増加)

## 企業からのコメント

- ☆★土木工事は順調であるが、ウッドショックの影響が大きく、建築工事は難航している。また、若い人材の不足が続いている。(総合建設業)
- ★原材料や資材が9・10月から、今までにない20～30%の値上げ幅となり、販売価格に影響がある。
- ☆新築住宅の需要は安定して続いているが、そろそろ落ちつくのではないかと懸念している。(以上建築業)



### 卸小売業の景況

業況は7割悪化の▲38、来期は悪化の予想

卸小売業の7～9月期の業況判断D・Iは▲38で、前回(▲31)に比べ7割悪化しました。10～12月期の業況判断D・Iは4割悪化の▲42の予想です。

	(前期)	4～6月期	▲31
◆業況判断D・I	(今期)	7～9月期	▲38
	(来期)	10～12月期	▲42(予想)

21.10.11～12

◇業種別	卸売業	前期 ▲24 → ▲25 (1割悪化)
	小売業	前期 ▲36 → ▲46 (10割悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲12 (4割改善)

「増益」割合	前期 16% → 24% (8割増加)
「減益」割合	前期 33% → 36% (3割増加)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」	前期33% → 36% (3割増加)
「収支トントン」	前期48% → 43% (5割減少)
「赤字」	前期19% → 21% (2割増加)

### 企業からのコメント

- ☆コロナ禍でも特に嗜好品である果物等の需要は伸びていると思う。しかし、あまり高額のものは売れていない。(青果卸)
- ☆★コロナ禍で、需要が少し落ち着き始めてきた感がある。取扱品目の不足が今後の課題。経費も増えてきている。(花鉢卸)
- ☆一時期に比べると、ワクチン接種も進み、決算フェアも行われている。新車・中古車とも売れ行きは上がりつつある。(自動車販売・修理)

### サービス業の景況

5割改善の▲55、来期も同等の予想

サービス業全体の7～9月期の業況判断D・Iは▲55で、前回(▲60)と比べ5割改善しました。業種別では、不動産が改善しています。10～12月期の業況判断D・I(予想)は12割改善の▲43です。

	(前期)	4～6月期	▲60
◆業況判断D・I	(今期)	7～9月期	▲55
	(来期)	10～12月期	▲43(予想)

◇業種別業況判断D・I

サービス	前期 ▲50 → ▲29 (21割改善)
輸送	前期 ▲56 → ▲67 (11割悪化)
タクシー	前期 ▲100 → ▲100 (横ばい)
運輸	前期 ▲33 → ▲50 (17割悪化)
外食	前期 ▲50 → ▲67 (17割悪化)
観光	前期 ▲100 → ▲100 (横ばい)
不動産	前期 ▲38 → ▲10 (28割改善)

### 企業からのコメント

- ★新型コロナウイルスで、一番影響を受けている業種のひとつだが、団体旅行客、教育旅行客を主体としていたホテルや旅館はほぼ壊滅状態。個人客主体でも格差が大きい。(日本旅館)
- ☆★新型コロナウイルスの緊急事態宣言地域ほど荷動きの変動は大きくないが、依然として厳しい状況は続いている。(貨物輸送)
- ☆★ウッドショックとコロナ禍の中でも、新規の案件が出てきている。個人の中には、事業を廃止するための相談も出始めてきている。(不動産)



## 雇用情勢 7～9月期

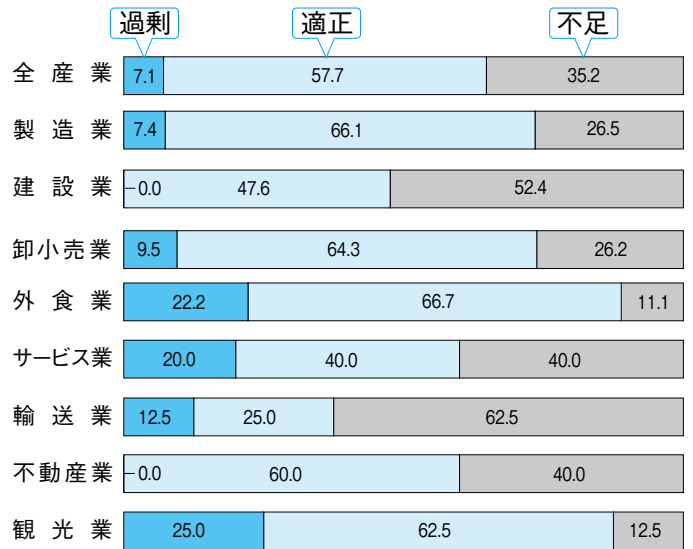
### 製造・卸小売・サービス・不動産・観光が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲28となり、前回(▲27)より1ポイント悪化しています。

#### 雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)
全産業	▲27.1	▲28.1
製造業	▲20.1	▲19.1
建設業	▲43.7	▲52.4
卸小売業	▲21.4	▲16.7
外食業	+12.5	+11.1
サービス業	▲37.5	▲20.0
輸送業	▲33.3	▲50.0
不動産業	▲50.0	▲40.0
観光業	+11.1	+12.5

#### 従業員の過不足感 (%)



(資料:当金庫)

## 資金繰り 7～9月期

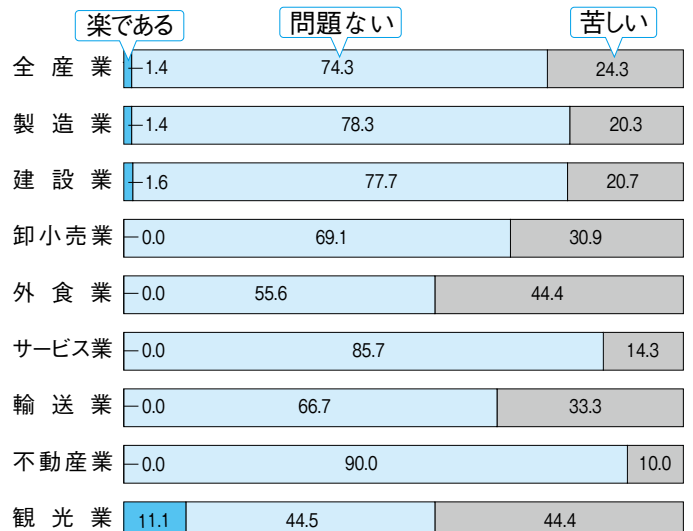
### 輸送・不動産・観光が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲23となり、前回(▲19)より4ポイント悪化しています。

#### 資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)	来期(10～12月)
全産業	▲19.0	▲22.9	▲25.1
製造業	▲16.4	▲18.9	▲22.0
建設業	▲7.9	▲19.1	▲18.1
卸小売業	▲25.6	▲30.9	▲33.3
外食業	▲37.5	▲44.4	▲44.4
サービス業	▲12.5	▲14.3	▲14.3
輸送業	▲66.6	▲33.3	▲44.4
不動産業	▲12.5	▲10.0	▲10.0
観光業	▲37.5	▲33.3	▲44.4

#### 資金繰り状況感 (%)



(資料:当金庫)

## 販売価格動向 7～9月期

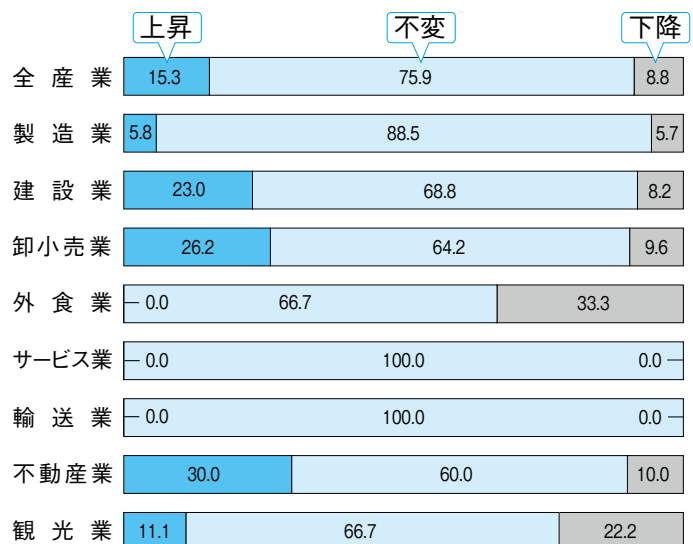
### 建設・卸小売・外食・不動産・観光が上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+7となり、前回(+4)に比べ3ポイント改善しています。

#### 販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

業種	前期(4～6月)	今期(7～9月)	来期(10～12月)
全産業	+4.2	+6.5	+9.9
製造業	+2.8	+0.1	+7.3
建設業	+11.2	+14.8	+15.2
卸小売業	+9.4	+16.6	+19.0
外食業	▲37.5	▲33.3	±0
サービス業	+12.5	±0	+14.3
輸送業	±0	±0	±0
不動産業	±0	+20.0	±0
観光業	▲22.2	▲11.1	▲22.2

#### 業種別販売価格動向(対前期) (%)



(資料:当金庫)

環境に配慮した企業経営

「取組みはこれから」40% 「さらに取組むべき」34% 「十分に取組んでいる」7%

環境問題に関する取組み課題

「設備や資金が不足」24% 「従業員への環境教育」23% 「人材やノウハウが不足」17%

環境に配慮した企業経営 「取組みはこれから」(40%) が最も高く、「さらに取組むべき」(34%) と続き、「十分に取組んでいる」は7%に過ぎません。

環境問題に関する取組み課題 「設備や資金が不

足」(24%)、「従業員への環境教育が不十分」(23%)、「人材やノウハウが不足」(17%)のあと「新たな環境配慮の項目が思いつかない」「環境配慮事例のアピール不足」「取組みがマンネリ化」となりました。

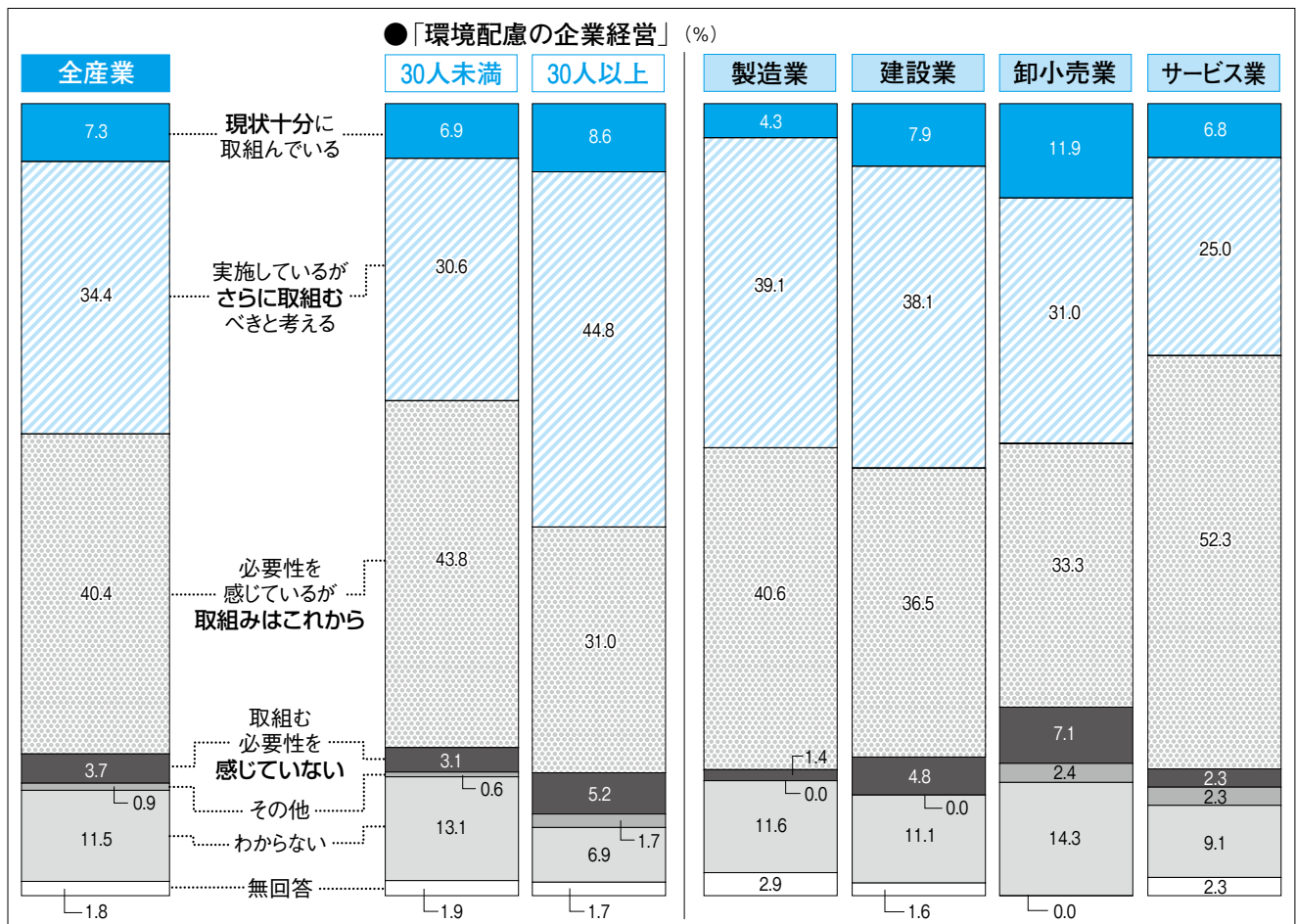
環境に配慮した企業経営

- 「必要性を感じているが、取組みはこれから」40%
- 「実施しているが、さらに取組むべき」34%
- 「わからない」12%
- 「十分に取組んでいる」7%
- 「取組む必要性を感じていない」4%

「環境配慮の企業経営」について、現在の取組み状況を聞きました。最も高かったのは「必要性を感じ

ているが、取組みはこれから」(40%)で、次に「実施しているが、さらに取組むべき」(34%)となり、「現状十分に取組んでいる」(7%)、「取組む必要性を感じていない」(4%)は1ケタでした。

従業員規模で見ると、30人以上は「実施しているが、さらに取組むべき」(45%)が30人未満より14%高く、30人未満は「必要性を感じているが、取組みはこれから」(44%)が30人以上より13%高くなっています。



## 業種別

### 「必要性を感じているが、取組みはこれから」

サービス 52%～卸小売 33%

### 「実施しているが、さらに取組むべき」

製造 39%～サービス 25%

### 「わからない」

卸小売 14%～サービス 9%

### 「十分に取組んでいる」

卸小売 12%～製造 4%

### 「取組む必要性を感じていない」

卸小売 7%～製造 1%

**製造業** 「実施しているが、さらに取組むべき」(39%)が他業種に比べて最も高く、「十分に取組んでいる」(4%)と「取組む必要性を感じていない」(1%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**建設業** 「その他」(0%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**卸小売業** 「十分に取組んでいる」(12%)と「取組む必要性を感じていない」(7%)、「わからない」(14%)、「その他」(2%)が他業種に比べて最も高く、「必要性を感じているが、取組みはこれから」(33%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**サービス業** 「必要性を感じているが、取組みは

これから」(52%)が他業種に比べて最も高く、「実施しているが、さらに取組むべき」(25%)と「わからない」(9%)は他業種に比べて最も低くなりました。

## 環境問題に関する取組み課題

「環境配慮の経営には設備や資金が不足」 24%

「従業員への環境教育が十分できていない」 23%

「人材やノウハウが不足している」 17%

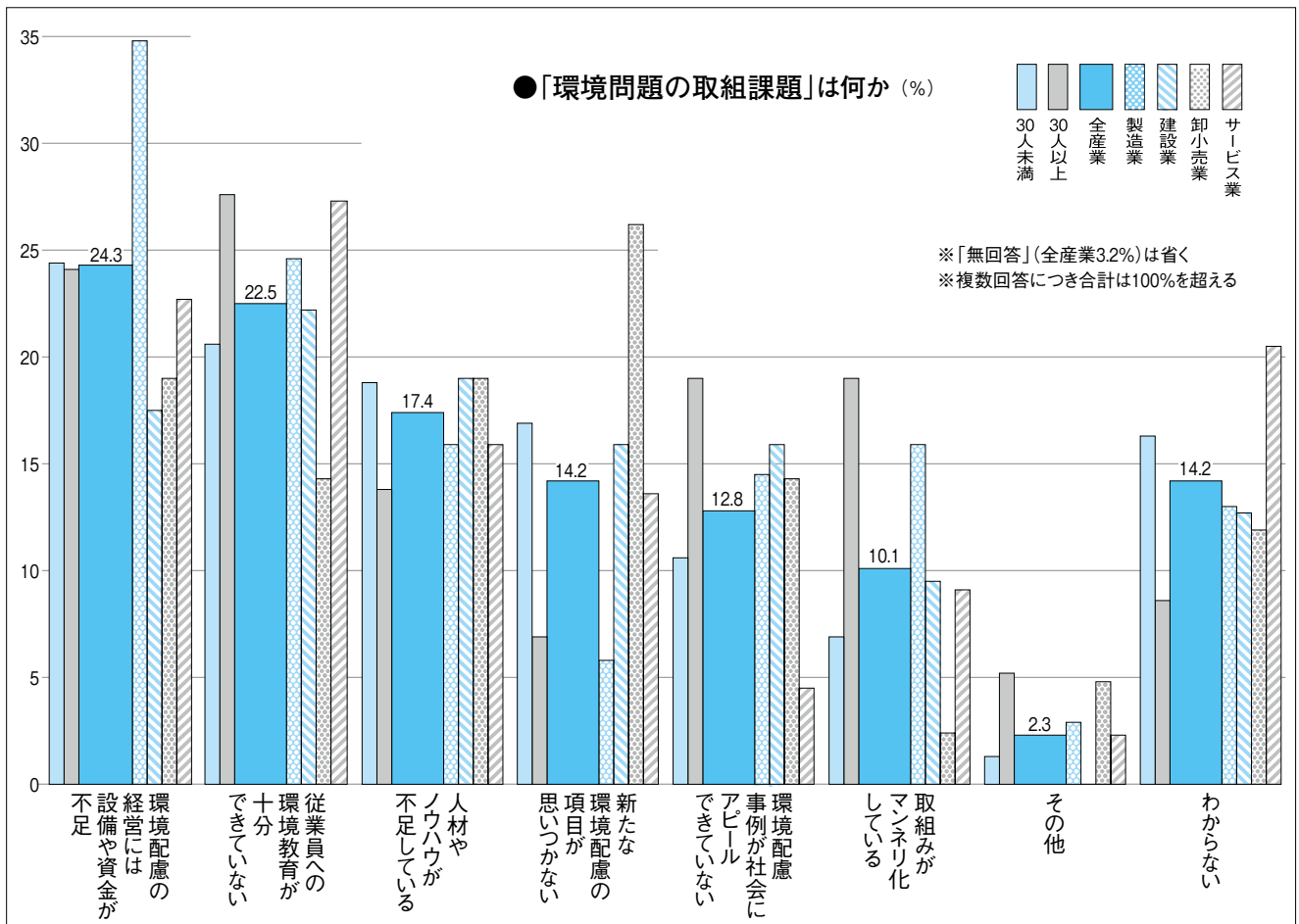
「新たな環境配慮の項目が思いつかない」 14%

「環境配慮事例が社会にアピールできていない」 13%

「取組みがマンネリ化している」 10%

「わからない」 14%

「環境問題の取組課題」に関して、現状の課題を聞きました。最も高かったのは「環境配慮の経営には設備や資金が不足」(24%)と「従業員への環境教育が十分できていない」(23%)が2割台となりました。続いて「人材やノウハウが不足している」(17%)、「新たな環境配慮の項目が思いつかない」(14%)、「環境配慮事例が社会にアピールできていない」(13%)、「取組みがマンネリ化している」(10%)の4項目が1割台となっています。





従業員規模で見ると、30人以上は「取組みがマンネリ化している」(19%)が12社、「環境配慮事例が社会にアピールできていない」(19%)が8社、「従業員への環境教育が十分できていない」(28%)が7社、30人未満より高くなりました。30人未満は「新たな環境配慮の項目が思いつかない」(17%)が10社、「人材やノウハウが不足している」(19%)が5社、「わからない」(16%)が8社、30人以上より高くなっています。

## 業種別

### 「環境配慮の経営には設備や資金が不足」

製造 35%～建設 18%

### 「従業員への環境教育が十分できていない」

サービス 27%～卸小売 14%

### 「人材やノウハウが不足している」

建設・卸小売 19%～製造・サービス 16%

### 「新たな環境配慮の項目が思いつかない」

卸小売 26%～製造 6%

### 「環境配慮事例が社会にアピールできていない」

建設 16%～サービス 5%

### 「取組みがマンネリ化している」

製造 16%～卸小売 2%

### 「わからない」

サービス 21%～卸小売 12%

**製造業** 「環境配慮の経営には設備や資金が不足」(35%)、「取組みがマンネリ化」(16%)が他業種に比べて最も高く、他方「人材やノウハウが不

足」(16%)、「新たな環境配慮の項目が思いつかない」(6%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**建設業** 「人材やノウハウが不足」(19%)、「環境配慮事例が社会にアピール不足」(16%)が他業種に比べて最も高く、他方「環境配慮の経営には設備や資金が不足」(18%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**卸小売業** 「新たな環境配慮の項目が思いつかない」(26%)、「人材やノウハウが不足」(19%)が他業種に比べて最も高く、他方「従業員への環境教育が不十分」(14%)、「取組みがマンネリ化」(2%)は他業種に比べて最も低くなりました。

**サービス業** 「従業員への環境教育が不十分」(27%)、「わからない」(21%)が他業種に比べて最も高く、他方「人材やノウハウが不足」(16%)、「環境配慮事例が社会にアピール不足」(5%)は他業種に比べて最も低くなりました。

◇次号は「SDGs(持続可能な開発目標)への取組み」と「取組む際の課題」を予定

## [調査要領]

実施期日：2021年9月上旬～中旬

実施要領：第185回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収218社(製造業69社、建設業63社、

卸小売業42社、サービス業44社)

うち従業員30人未満160社(73.4%)

## 「環境に配慮した企業経営」に関する企業からのコメント

### 製造業

◇当社のような中小企業には余力はあまりなく、経営にとってメリットがある場合でもないと、積極的には取り組みづらいところがある。(そば)

◇環境に配慮すべき業種別項目の提示を政府が示すべきで、漠然とした環境配慮では、企業として前向きなスタンスになりにくい。

(きのこ・山菜・漬物)

◇業態が古いので、今後、様々なニーズに追いつくことは難しい。(金属製品加工)

◇必要性を感じていても、中小企業は、そこまで取組む余裕がないのが現状。(各種プラスチック製品)

### 建設業

◇企業イメージの向上につながるが、資金も取組む時間もない。企業活動のベースとして、意識して取組むべきことだろうと思う。(総合建設)

◇会社の規模が小さいので、法律等で規制されない限り取組みは難しい。(建築)

◇どんなことに取組めば「SDGs」になるのかが理解できておらず、今後の課題。(鉄骨鉄筋工事)

### 卸小売業

◇日々の経営が大変なので、出来ることから取組んでいきたい。(小売業)

◇現在、勉強中で、主な取組み課題は何か回答できない状況にある。(自動車電装部品)

### サービス業

◇物流業種に関しても、当然、取組むべきだろうが、それ以前に職場環境やコンプライアンスの整備に力を入れるのが先だと考える。(トラック)

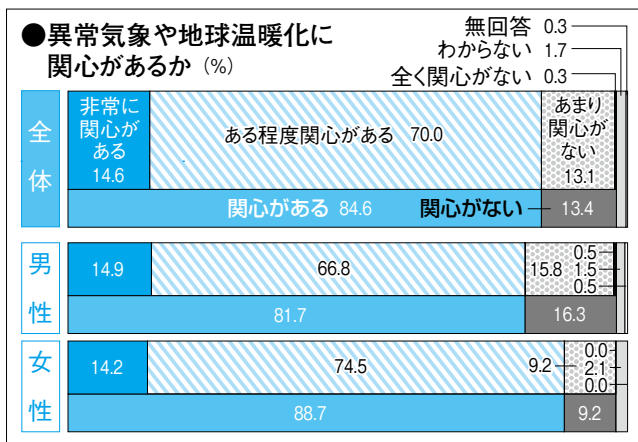
◇2004年に行った「温泉暖房熱交換」の工事によって、CO<sub>2</sub>の排出量が“70%減”(2004年以前との対比)となっている。(日本旅館)



●異常気象や地球温暖化に関心があるか

「非常に関心がある」15% 「ある程度関心がある」70% 「関心がない」13%

「異常気象や地球温暖化に関心があるか」を聞いたところ、「非常に」と「ある程度」関心があると答えた人は85%で、「あまり」と「まったく」関心がない人は13%でした。男女別で見ると、女性が7割高い89%、世代別で見ると、年齢と比例して高く、50代以上が87%となりました。

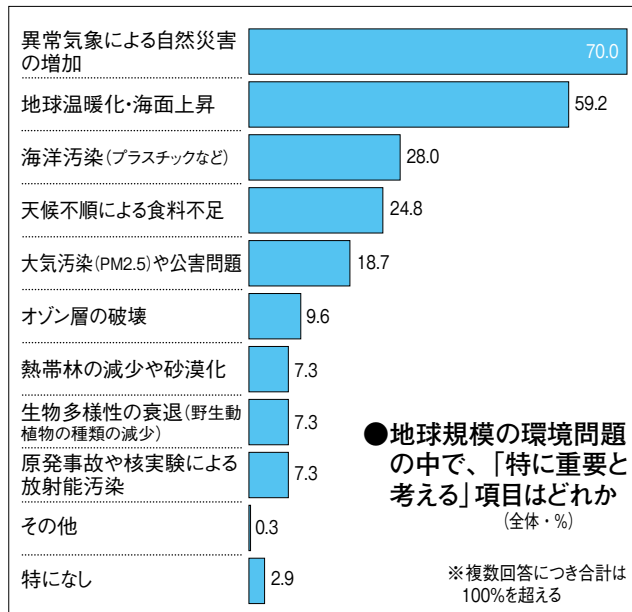


「異常気象による自然災害の増加」70%

「地球規模の環境問題の中で、特に重要と考える項目はどれか」を聞きました。

最も高かったのは「異常気象による自然災害の増加」で70%、以下「地球温暖化・海面上昇」(59%)、「海洋汚染(プラスチックなど)」(28%)、「天候不順

による食料不足」(25%)、「大気汚染(PM2.5)や公害問題」(19%)、「オゾン層の破壊」(10%)が2ケタとなっています。



[調査要領]

実施期日：2021年9月上旬～中旬  
 実施場所：長野信用金庫本支店窓口  
 調査数：343人(男性202人・女性141人)  
 調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「環境問題—地球温暖化」に関する生活者からのコメント

- ◇マイバッグの使用など、一人一人が出来ることは小さいかも知れないが、そういった積み重ねが環境問題には大切だと思う。(20代女性)
- ◇コロナ禍のロックダウンにより中国での大気汚染が改善された。地球を守るためには、何らかの規制が必要では。(20代男性)
- ◇経済とのバランスの保ち方が難しそう。たった30年でも“地球温暖化”の進行を感じている。(30代女性)
- ◇香典返しの品物の過剰包装が気になっている。ほかにも、ソックスなどの日用品も過剰包装されていて、意識改革が必要だと思う。(40代女性)
- ◇使い捨てマスクや除菌用品等の“コロナごみ”が、適切に処理されずに捨てられていて、生態系への影響が心配。(40代男性)
- ◇プラスチック系のゴミのリサイクルが出来ているのに、レジ袋だけを削減の目玉にしていることが不思議。

- 議。大して環境負荷をかけていない部分を削減して良いことをしたつもりはオカシイ。(50代女性)
- ◇環境問題に対する最も有効な対策は、技術革新だと思う。通信技術の高度化によるEV車(自動運転車)の普及を急ぐことが大事。(50代男性)
- ◇夏の気温上昇が昔とは大きく違い、エアコンが必需品となってしまった。エアコンの室外機からの熱風が、さらにまた外気温を上げている。イタチごっこに終わりはあるのか。(50代男性)
- ◇環境の変化や変動に合わせて、生活スタイルを見直し、それに合わせて変えていく必要がある。(60代以上女性)
- ◇町の中にゴミ箱が少なくなった気がする。道路や空地へのゴミのポイ捨て防止の対策として設置の必要性があるのではないかと。(60代以上男性)

# 北信濃 江戸時代の風景

## (86) 善光寺の西方

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、江戸時代に善光寺門前で売られていた観光案内図「信州川中嶋古跡順道手引草之図」を、少しずつ切り取って紹介します。今回は善光寺の西方部分で、左が南、右が北になっています。

### 大勸進

図の中央から左下にかけて、善光寺の大勸進が描かれています。天台宗の本坊で、蓮池に橋が架かり、門のある光景は現在も変わっていません。この門は、諏訪の宮大工、初代立川和四郎富棟によって建てられました。富棟は、諏訪大社下社秋宮の幣拝殿(重要文化財)を建てたことで知られる名工です。

大勸進の境内には、「マンゼン堂」(万善堂)と「ゴマ堂」(護摩堂)が描かれています。万善堂は、実

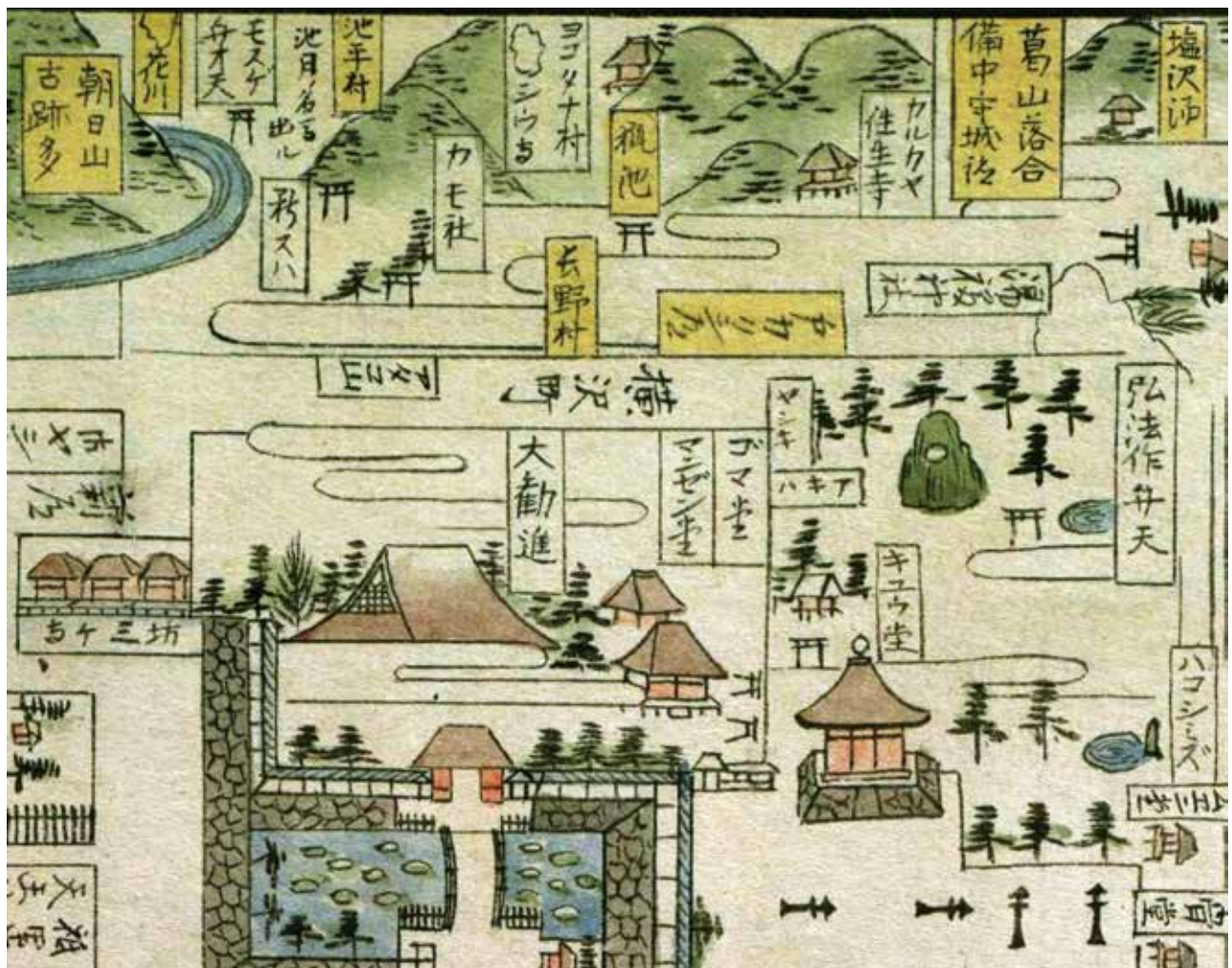
際には大勸進の本堂に当たる建物です。

### 横沢町周辺

大勸進の西側の「横沢町」は、大勸進に直属した町で、大本願直属の立町とともに両御門前と称していました。他の町々とは別格扱いで、祇園祭等にも参加していませんでした。

「アタコ山」は、現在は横沢町の八幡社に合祀されています。「長野村」は、八町両御門前と呼ばれる町々の総称で、八町にはそれぞれ庄屋がいました。

「戸カクシ道」とあるように、南北に連なる横沢町の通りは戸隠街道で、北の「湯福神社」に突き当たり、左折して「塩沢湯」を通過して、戸隠方面に通じていました。



「信州川中嶋古跡順道手引草之図」の一部(国立国会図書館蔵「扶桑探勝図」より)



## 湯福神社

横沢町の北(右)に、「湯福神社」の鳥居と社殿が描かれています。武井神社、妻科神社とともに善光寺三鎮守の1つに数えられている古社です。湯福の語源は息吹だと言われ、風の神としての信仰がありました。境内には、善光寺の開祖とされる本田善光をまつる善光廟があります。



湯福神社前のかるかや道の道標

## 塩沢湯

湯福神社前から旧戸隠街道を進み、長野西高校前から400メートルほど行った左側にあった塩沢鉱泉です。山の麓に建物が描かれています。戸隠街道に沿っており、善光寺からも近いので、利用者の多い鉱泉でした。小林一茶が訪れた記録もあります。

## 葛山

「塩沢湯」の左に、「葛山落合備中守城跡」と書いてあります。その左の山が「葛山」で、そこにある葛山城跡は長野市の史跡に指定されています。落合氏をはじめとする葛山衆と呼ばれる武士たちの拠点でしたが、弘治3年(1557)2月に武田信玄によって攻め落とされました。5回にわたって行われた川中島の戦いの、第3次の合戦の時でした。

## 往生寺

「カルカヤ往生寺」と書いてあります。往生寺(浄土宗)は善光寺の奥の院的な寺で、かつては善光寺参りの旅人の多くがここまで足を延ばしました。参道は、湯福神社前で戸隠街道と分かれ、急坂を一直線に登って往生寺に至ります。昭和初期にはこれに沿って登山鉄道が計画され、工事が始まりましたが、完成を見ずに中止されてしまいました。かるかや道心と石童丸の物語が絵解きされる寺としても知られています。

## 狐池

「狐池」の下に、鳥居が描かれています。「狐池」は現在は地名となっていますが、本来は池の名で善光寺七池の1つに数えられています。鳥居は、そこにまつられた諏訪神社です。

## 静松寺

「ヨコタナ村□シウ寺」とあって、山腹に寺が描かれています。これは長野市茂菅横棚の静松寺(浄土宗)です。開基は頼朝坊智盛で、笈を背負って諸国を巡り、この寺で没しました。源頼朝は頼朝坊の生まれ変わりとされています。頼朝は善光寺に参拝した時、この寺に立ち寄って頼朝坊をしのび、寺領を寄進したといいます。

## 加茂神社

「カモ社」は、長野市西長野の加茂神社です。善光寺七社の1つで、古代に大本願上人が京都から下られた時に勧請されたと伝えています。毎年秋の例大祭には、大本願上人が参拝されることになっています。

## 新諏訪

山の麓に鳥居があり、「新スハ」と書いてあります。これは長野市新諏訪の諏訪神社です。秋祭りに奉納される瓜割煙火は、長野市の選択無形民俗文化財に指定されています。

## 池平村

その上に、「池平村」「池月ノ名馬出ル」と書いてあります。「池平村」は長野市上ヶ屋の池平でしょう。「池月」は源頼朝の乗馬です。名馬池月の誕生地の伝説は全国各地にあるようですが、長野のそうした伝説はまったく知られていません。

11月号は「須坂」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)

★地球温暖化に関心があるか？

「温暖化を防ぐために、最低限の協力はする」 71%  
 「積極的にライフスタイルを変えていく」 19%  
 「温暖化が進んでもライフスタイルは変えない」 6%

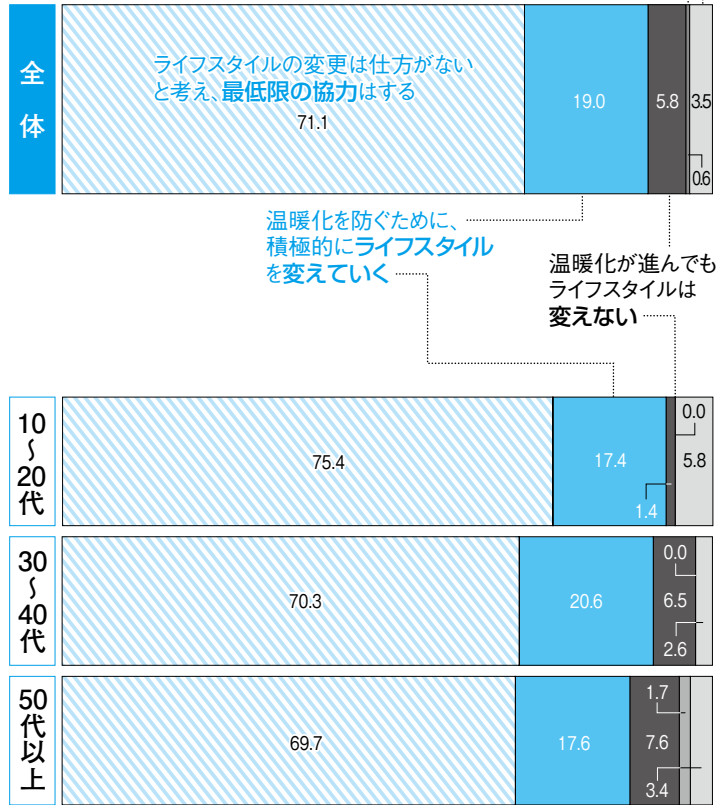
「地球温暖化を考えたとき、今の生活を見直すことに関してどのように考えるか」を聞きました。

「ライフスタイルの変更は仕方がないと考え、最低限の協力はする」が7割強(71%)で、「温暖化を防ぐために、積極的にライフスタイルを変えていく」が2割弱(19%)、合わせて9割が地球温暖化に関心を示しています。「温暖化が進んでも、ライフスタイルは変えない」は6%、「わからない」は4%、「その他」は1%でした。

男女別で見ると、男性の「最低限の協力はする」は74%、「ライフスタイルを変える」は16%、合わせて91%が関心を示しています。女性は同様に67%・23%・89%になりました。

世代別の「関心がある」は、10～20代93%、30～40代91%、50代以上87%となっています。〈当金庫・2021年9月調査〉

●地球温暖化を考えたとき、「今の生活を見直すことに関してどのように考えるか」(%)



●みなさまの税務相談のご案内 [11月]

(注)上の店名は開催場所、下の( )内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
11月2日 火	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	11月18日 木	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)
4日 木	大豆島支店 (長池支店)		19日 金	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
8日 月	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	25日 木	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
11日 木	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	26日 金	本店営業部	
12日 金	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	29日 月	本 部	
16日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	30日 火	本 部	

